

【】 土地制度・農業・産業など

[要点]

縄文時代	狩りや採集→縄文土器で煮炊き・保存／豊かな恵みを願うための土偶／貫珠	
弥生時代	大陸から稲作が伝わる／高床倉庫／稲の収穫のための石包丁／弥生土器／金属器(青銅器・鉄器)	
古墳時代	高温で焼いた硬い質の土器(須恵器)／高級な絹織物	
飛鳥時代 (593)	矢化の改新で公地公民	
奈良時代 (710)	班田收授法・口分田／租・庸・調・雑徭などの税や兵役(防人)の義務 →重い負担→農民の逃亡 墾田永年私財法(743)→貴族・寺院が農民を使って開墾→荘園の始まり	鉄製の農具の普及 平城京の市 富本銭や稻荷開墾
平安時代 (794)	荘園の発達・荘園の寄進→摂関政治・院政の経済的基礎 地方の政治は国司にまかせきり→地方政治の乱れ→有力農民の武装→武士の発生 平清盛が日宋貿易	
鎌倉時代 (1185)	荘園ごとに地頭を任命→農民は年貢を荘園領主や地頭に納め二重の支配に苦しむ(阿比河荘の農民の訴え)	牛馬による耕作／肥料の使用 ／麦を裏作とする二毛作 商品作物／定期市・宋銭や明銭←勘合貿易
室町時代 (1338)	惣とよばれる自治的な組織で惣村→用水路の維持や管理・土一揆	土倉・酒屋・寺院が高利貸し座とよばれる同業者の組合
安土桃山時代	織田信長の楽市・楽座、蘭所の廃止 太閤検地・ものさしやますを統一・石高をもとに年貢をとり立てる 力狩→兵農分離	蘭貿易
江戸時代 (1603)	慶安の御触書、五人組の制度 庄屋・組頭・百姓代などの村役人 百姓一揆、都市では打ちこわし 西廻り航路、東廻り航路 大阪(天下の台所)・江戸(将軍のおひざもと) 榎仲間	架船貿易 新田開発で耕地面積の増大 備中ぐわや半歯こきの発明 藍・紅花・綿・粟種などの商品作物→農村に貨幣経済が広がる
明治時代 (1868)	地租改正(地券を発行・地価の3%を現金で)→反対一揆 生糸の輸出が増加し、養蚕がさかんになり桑畑が増加	
大正時代 (1912)	小作料の引き下げを求める小作争議	
昭和時代 (1926)	農地改革(戦後の民主化政策)	

【】 農業・農村

[問題]

縄文時代について書かれたものとして最もふさわしいものはどれか。

- ア 巨大な前方後円墳がつくられた。
- イ 収穫した稲は高床の倉庫にたくわえられた。
- ウ 和同開珎という貨幣が使われた。
- エ 当時の海岸や水辺に貝塚ができた。

(神奈川県)

[解答欄]

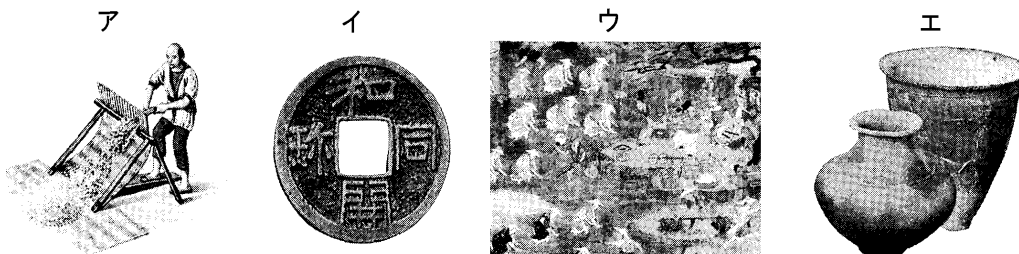
[解答]エ

[解説]

エ(縄文：「貝塚」より判断)→イ(弥生：「高床の倉庫」より判断)→ア(古墳：「前方後円墳」より判断)→ウ(奈良ごろ：「和同開珎」より判断)

[問題]

「大陸から稲作が伝えられ、人々は水田の近くに定住した。竪穴住居の近くには収穫した稲をたくわえるための高床倉庫もつくられた。」時代の人々の暮らしと最も関連の深いものを、ア～エから1つ選んで記号で答えよ。



(島根県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

「大陸から稲作が伝えられ、人々は水田の近くに定住した。竪穴住居の近くには収穫した稲をたくわえるための高床倉庫もつくられた。」のは弥生時代である。

エ(弥生：弥生土器)→イ(奈良ごろ：和同開珎 701年)→ウ(室町：農民は惣という自治組織でまとまりを強め、農民がそろって田植えをするようになった)→ア(江戸：千歯こき)

[問題]

紀元前 4 世紀～紀元 3 世紀当時の社会や人々の生活の様子について述べた文として最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。

- ア 鉄製の農具が広まり、稲の収穫量が増えたが、人口も増加したため、口分田が不足してきた。
- イ 食料を煮たり保存したりするため、縄文土器とよばれる土器がつくられ始めた。
- ウ 貧富の差や身分の違いが生まれ各地で有力な指導者によって小さな国がつけられていった。
- エ 耕作に牛馬を利用したり、肥料を使ったりするようになり、二毛作が各地に広まった。

(山形県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

紀元前 4 世紀～紀元 3 世紀は弥生時代。イ(縄文:「縄文土器」より判断)→ウ(弥生後半)→ア(奈良:班田収授法で口分田を貸与)→エ(鎌倉～室町)

[問題]

5 世紀ころに渡来人が中国や朝鮮から伝えた技術や文化などについて述べているのは、次のア～エのうちではどれか。

- ア 二毛作が広まり、耕作に牛馬を利用したり、肥料を使ったりするなどの工夫がされるようになった。また、茶を飲む習慣が広がり、茶の栽培がさかんになった。
- イ 綿糸や綿布をつくる機械の改良が進み、石炭を燃料とする蒸気機関が動力として使われるようになった。また、蒸気機関車が実用化され鉄道が開通した。
- ウ 高温で焼いた硬い質の土器や高級な絹織物がつくられるようになった。また、漢字を用いた外交文書や記録が作成されるようになった。
- エ 縄目の文様がついた土器がつけられ、狩りや採集で得た食料の煮たきや貯蔵に使われるようになった。また、豊かな恵みを願うなどの目的で土偶がつけられた。

(東京都)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

エ(縄文：縄文土器・狩りや採集)→ウ(古墳：須恵器や絹織物などの技術や文字などを5世紀ころに渡来人が伝えた)→ア(鎌倉後期～室町：二毛作・牛馬耕)→イ(イギリスで18世紀におこった産業革命)

[問題]

日本の農業に関して述べた次のア～エの文を古い順に並べ、その符号を書け。

- ア 稲の収穫には石包丁が使われ、豊作を神に祈る祭りなどに銅鐸などの青銅器が使われた。
イ 新しい土地の開墾がさかんに行われ、農具として備中ぐわが普及し千歯こきが発明された。
ウ 口分田が不足し、新しく開墾した土地を永久に私有することを認める法が定められた。
エ 稲と麦の二毛作や牛馬を使った農耕が広がり生産量が増え、市では大量の宋銭や明銭が農作物などの商品の取引に使われた。

(兵庫県)

[解答欄]

[解答]ア→ウ→エ→イ

[解説]

ア(弥生：「石包丁」「銅鐸」より判断)→ウ(奈良：口分田の不足→743年の墾田永年私財法)→エ(室町：明銭とあるので鎌倉時代ではなく室町時代)→イ(江戸：「備中ぐわ」「千歯こき」より判断)

[問題]

奈良時代の農民の生活として最も適切なものを、ア～エから1つ選べ。

- ア 生活にゆとりができた農民は、自分たちでくふうをこらして新田を開墾した。
イ 農業技術が進歩し、牛馬を使った耕作や、米と麦の二毛作を行うようになった。
ウ 重い税に苦しむ農民の中には、逃亡したり戸籍をいつわったりする者もいた。
エ 用水路の維持や管理を村で行うようになり、村と村とが対立するようになった。

(徳島県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

ウ(奈良：現実にあわない租庸調の重税→農民の苦しみ→逃亡)→イ(鎌倉後期～室町：「牛馬を使った耕作」「二毛作」より判断)→エ(室町：惣とよばれる自治的な組織が発達して、用水路の維持や管理を行った)→ア(江戸：新田開発がさかんに行われたのは江戸時代)

[問題]

①鑑真が日本に来たころ、②中国船の貿易が長崎に限られていたころの農村のようすを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号を書け。

- ア 農民には口分田があたえられ鉄製の農具が広まり稲の収穫は増えた。
- イ 二毛作が各地で行われ、肥料に牛馬の糞や堆肥を使用し、米の収穫量が増えた。
- ウ 草や木の灰が肥料として使われ米の裏作に麦が作られるようになった。
- エ 備中ぐわや千歯こきなどの農具が発明され、農業の生産力が高まった。

(長野県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① ア ② エ

[解説]

①鑑真が来日したのは奈良時代。②中国船の貿易が長崎に限られていたのは江戸時代。

ア(奈良：「口分田」より判断)→ウ(鎌倉)→イ(室町：二毛作が普及した点では鎌倉・室町とも共通だが、鎌倉時代は草や木の灰が肥料として使われ、室町時代になると、さらに牛馬の糞や堆肥もつかわれるようになった)→エ(江戸：「備中ぐわ」「千歯こき」より判断)

[問題]

鎌倉時代に農業の生産高が増えた。その理由を次のア～エの中から1つ選び、その記号を書け。

- ア 惣(惣村)をつくり用水路を管理するなど、農民の結びつきが強まったから。
- イ 墾田永年私財法が出されたため、農地が増加したから。
- ウ 備中ぐわや千歯こきなどが使われるようになったから。
- エ 牛馬による耕作や麦を裏作とする二毛作が始まったから。

(和歌山県)

[解答欄]

--

[解答]エ

【解説】

イ(奈良：墾田永年私財法は743年)→エ(鎌倉後期～室町：「牛馬による耕作」「二毛作」より判断)→ア(室町：「惣」より判断)→ウ(江戸：「備中ぐわ」「千歯こき」より判断)

【問題】

室町時代のころの農村の様子について適切なものをア～エから1つ選び、記号を書け。

ア 綿や藍、紅花などの作物が栽培されるようになり、手工業に取り組む農家もあらわれた。

イ 二毛作が広まり、牛馬による農耕が各地に普及した。

ウ 田畑の収穫は石高で表され、耕地ごとに耕作者が定められた。

エ 備中ぐわや千歯こきが使われ始めた。

(富山県)

【解答欄】

【解答】イ

【解説】

イ(鎌倉後期～室町：「牛馬による農耕」「二毛作」より判断)→ウ(桃山：太閤検地が実施され、田畑の収穫は石高で表されるようになった)→エ(江戸：「備中ぐわ」「千歯こき」より判断)・ア(江戸：衣料の原材料は江戸初期に麻から綿へ転換し、綿作がさかんになった。また生糸の中国からの輸入禁止にともなって、国内の養蚕業もさかんにな絹織物業が発展し、藍・紅花などの染物作物の需要を大幅に増加させた。)

【問題】

室町時代の社会の動きについて述べた文として適切なものを、次のア～エから選べ。

ア 田畑の広さや収穫高を調べる検地が全国的に行われた。

イ 小作料の引き下げを求める小作争議がひんばんに起こった。

ウ 有力な農民の指導のもとで、惣とよばれる組織がつくられた。

エ 貴族・寺院や郡司などは、農民を使って開墾し、私有地を広げた。

(群馬県)

【解答欄】

【解答】ウ

【解説】

エ(奈良：墾田永年私財法(743年)が出されると、貴族・寺院などは農民を使って開墾し、私有地を広げたが、これが荘園の始まりである。)→ウ(室町：「惣」より判断)→ア(桃山：太閤検地)→イ(大正：大正デモクラシーの風潮の中で小作争議がひんばんに起こった)

[問題]

次のア～エのうち、江戸時代の農業に関して述べたものはどれか。その記号を書け。

- ア 牛馬による耕作が広まり、米と麦の二毛作がはじまった。
- イ 経済の民主化が進められ、農地改革が実施された。
- ウ 農具の改良がおこなわれ千歯こきが発明された。
- エ 稲作がはじまり、稲をたくわえる高床倉庫がつくられはじめた。

(広島県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

エ(弥生：「稲作がはじまり」「高床倉庫」より判断)→ア(鎌倉後期～室町：「牛馬による耕作」「二毛作」より判断)→ウ(江戸：「千歯こき」より判断)→イ(昭和(戦後)：農地改革で、地主から土地を強制的に買い上げて小作農に安く売った。)

[問題]

徳川吉宗のころ農村にも貨幣経済が広がっていったが、このころの農村の状況の説明として最も適切なものをア～エから1つ選び、符号で書け。

- ア 租・調・調の税，兵役の義務などの負担が重く，逃亡する者も出た。
- イ 土倉や酒屋などをおそい，借金の証文をうばう土一揆がおきた。
- ウ 農具や肥料などを購入し，綿・菜種などの商品作物を栽培した。
- エ 地租改正に反対して，大きな農民一揆が各地でおきた。

(岐阜県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

徳川吉宗は江戸時代。

ア(奈良：「租・調・調の税」より判断)→イ(室町：「土倉」「酒屋」「土一揆」より判断)→ウ(江戸：肥料などを購入し，綿・菜種などの商品作物を栽培したのは江戸時代)→エ(明治：「地租改正」より判断)

[問題]

江戸に幕府が置かれていた時代の農村のようすについて述べた文として最も適当なものを、ア～エから1つ選び、その記号を書け。

- ア 6歳以上の人々に口分田が与えられ、人々はその面積に応じて租を負担した。
- イ 海や沼地を干拓して新田が開発され、千歯こきなどの新しい農具が登場した。
- ウ 荘園に館を構えた武士は、土地の開発を進め、農民を使って農業を営んだ。
- エ 有力農民の指導のもとで、村ごとに惣とよばれる自治的な組織がつけられた。

(愛媛県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

ア(奈良:「口分田」より判断)→ウ(平安後期～鎌倉:平安後期の摂関政治が行われていたころ、地方の政治が乱れたので、有力農民の中には自己の土地を守るために武装する者がでてきたが、これが武士の始まりである。彼らは国司による税の徴収をのがれるために、開発した土地を貴族や寺院に寄進した。藤原氏の摂関政治や上皇による院政を支えたのは、このようにして寄進された荘園である。)→エ(室町:「惣」より判断)→イ(江戸:「新田開発」「千歯こき」より判断)

[問題]

下のア～ウの文は、農業の方法について述べたものである。それぞれのできごとを年代の古いものから順に並べ、その符号を書け。

- ア トラクターなどの農業用機械が一般的に使われるようになった。
- イ 鉄製の農具を使って稲を刈り取る方法が行われるようになった。
- ウ 備中ぐわや千歯こきなどの農具が各地で使われるようになった。

(千葉県)

[解答欄]

[解答]イ→ウ→ア

[解説]

イ(古墳～:弥生時代には石包丁を使って稲を収穫していたが、古墳時代には鉄の鎌が使われるようになった。)→ウ(江戸:「備中ぐわ」「千歯こき」より判断)→ア(昭和(戦後):「トラクター」より判断)

【】 土地制度・税制・農民統制

[問題]

次の A～E を時代の古い順に並べよ。

- A 租・調・庸などの税を負担するとともに、兵役の義務が課されていた。兵士として、都の警備や九州北部の防衛に派遣される者もあった。
- B 五人組の制度がつくられ、犯罪防止や年貢の納入に共同で責任を負った。やがて、自然災害などにより、生活に苦しむ者が増えていった。
- C 荘園領主に年貢を納めていたが、武士による支配を受けることも多くなった。農業生産力が高まり、市で農作物を売る者があらわれた。
- D 太閤検地により、直接田畑を耕作する者に対して、土地を所有する権利が認められた。一方で、刀狩が行われ武器が取り上げられた。
- E 惣とよばれる自治組織をつくり、寄合を開いて、村のおきてを定め、用水路の管理などを決めた。また、徳政令を求める一揆を起こすこともあった。

(山口県)

[解答欄]

[解答]A→C→E→D→B

[解説]

A(奈良：「租・調・庸の税」より判断)→C(鎌倉：地頭の設置により農民は荘園領主と武士の二重の支配を受けた)→E(室町：「惣」より判断)→D(桃山：「太閤検地」「刀狩」より判断)→B(江戸：「五人組」より判断)

[問題]

次のア～エの史料を時代の古いものから順に並べ、その符号を書け。

- ア 諸国の百姓が、刀・わきざし・弓・やり・鉄砲・そのほか武具の類をもつことをかたく禁止する。
- イ これまでの田畑に対する年貢納入法をやめて、地券調査を行ったのちは、土地の代価の百分の三を地租とする。
- ウ 百姓は五人組を決めておき、何事によらず五人組のうちで、御法度を犯す者などがいれば、その組からすみやかに申し上げること。
- エ 今後は、開墾した者の思いのままに私有地として認め、三世までとか一身の間とか言わないで、永久に公地として取り上げない。

(石川県)

[解答欄]

[解答]エ→ア→ウ→イ

[解説]

エ(奈良:墾田永年私財法 743 年)→ア(桃山:豊臣秀吉の刀狩)→ウ(江戸:「五人組」より判断)→イ(明治:地租改正 1873 年)

[問題]

次のア～エを年代の古い順に左から並べて、その記号を書け。

- ア 村ごとに惣とよばれる自治的な組織がつくられ、神社などで寄合を開いて、用水の使用や管理などについて、村のおきてを定めた。
- イ 農民は、土地の売買を禁止され米以外の作物の栽培を制限された。また、本百姓の中から庄屋・組頭・百姓代などの村役人が選ばれた。
- ウ 牛や馬を使って田畑を耕すことがさかんになり、草や木の灰が肥料として使われるようになった。また、西国では二毛作も広まった。
- エ 太閤検地がおこなわれ、農民は、土地を耕作する権利を認められたが、年貢を負担する義務も負うことになった。

(茨城県)

[解答欄]

[解答]ウ→ア→エ→イ

[解説]

ウ(鎌倉:「牛馬耕、草木灰」「二毛作」より判断)→ア(室町:「惣」より判断)→エ(桃山:「太閤検地」より判断)→イ(江戸:「本百姓」「庄屋・組頭・百姓代などの村役人」より判断)

[問題]

次のア～ウを、できごとの起こった順に並べ、記号で答えよ。

- ア 国司は、一定の税を朝廷に納めれば、残りを自分の収入にすることができるようになり、国司の中には、できるだけ多くの税を取りたてようとするものもあらわれた。
- イ 新しく開墾した土地の私有が朝廷により認められ中央の貴族や寺社、地方の豪族などが私有地を広げることができるようになった。
- ウ 多くの荘園の寄進を受けた上皇が政治の実権を握るとともに、上皇に用いられた武士が大きな勢力を持った。

(静岡県)

[解答欄]

[解答]イ→ア→ウ

[解説]

イ(奈良：墾田永年私財法 743 年)→ア(平安中期：摂関政治のころ国司は私腹を肥やすことのみ熱心で、地方の政治が乱れた。)→ウ(平安後期：上皇の院政を支えた経済的基盤は寄進された荘園からの年貢であった。)

[問題]

次の文は、税と農民のようすについて述べたものである。年代の古いものから順に記号を書け。

- ア 農民は生産高のほぼ半分を年貢として課せられ、年貢の納入などに共同責任をとらせる五人組の制度が設けられた。
- イ 農民は、税を納めるだけでなく雑徭とよばれる労役なども課せられた。そのため、労役の現場から逃亡する者や、税をのがれるために口分田を捨てて他の土地に移る者もいた。
- ウ 米の裏作に麦をつくる二毛作が広まるなどし、農業生産は高まったが、農民の中には、荘園領主に納める年貢と地頭から課せられる労役の二重の負担に苦しむ者もあった。

(大阪府)

[解答欄]

--

[解答]イ→ウ→ア

[解説]

イ(奈良：「雑徭」「口分田」より判断)→ウ(鎌倉：「荘園領主と地頭の二重支配」ということより判断)→ア(江戸：「五人組」より判断)

[問題]

農村や農民のようすをのべた次の①～③の文は、それぞれ[奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町・安土桃山・江戸・明治]のどの時代か。

- ① 千歯こきなどの農具が発明されるとともに、商品作物の栽培が行われた。
- ② 地価を定め、その 3%の税を納める制度が定められた。
- ③ 戸籍に基づいて、口分田が支給されたが、様々な税や労役に苦しんだ。

(岡山県)

[解答欄]

①	②	③
---	---	---

[解答]① 江戸 ② 明治 ③ 奈良

【解説】

③(奈良：「口分田」より判断)→①(江戸：「千箇こき」より判断)→②(明治：地租改正で、税の算出基準はそれまでの収穫高から地価に変わった。)

【問題】

奈良時代の農民の負担として正しいものを、次のア～エから1つ選んで記号で書け。

- ア 石高の10分の4から10分の5を年貢として負担した。
- イ 土地の所有者が地価の3%を現金で支払った。
- ウ 租・調・庸などのほか、兵役の義務を負った。
- エ 年貢を荘園領主や地頭に納めた。

(福井県)

【解答欄】

【解答】ウ

【解説】

ウ(奈良：「租・調・庸」より判断)→エ(鎌倉：この時代の農民は荘園領主と地頭の二重の支配を受けていた)→ア(桃山・江戸：「石高」より判断)→イ(明治：地租改正で地価の3%を現金で納入するようになった。)

【問題】

平安時代の農村のようすを述べた文として、最も適当なものはどれか、下のア～エから1つ選び、その記号を書け。

- ア 戸籍の制度や班田収授が行われなくなり、地方の政治は国司にまかせきりになった。
- イ 農家5～6戸で組織された五人組が、年貢の納入や犯罪の防止に共同責任を負った。
- ウ 土地の所有者は、地価の3%にあたる額を地租として、貨幣で納めることとなった。
- エ 経済力をたくわえた農民は、惣とよばれる自治組織をつくり、村のおきてを定めた。

(三重県)

【解答欄】

【解答】ア

【解説】

ア(平安中期：摂関政治のころ地方の政治は国司にまかせきりになり、政治が乱れた)→エ(室町：「惣」より判断)→イ(江戸：「五人組」より判断)→ウ(明治：地租改正で地価の3%を現金で納入するようになった。)

[問題]

次のア～エは、税に関することについて述べたものである。このうち、鎌倉～明治時代の期間にあたるものを3つ選び、時代の古い順に書け。

- ア 太閤検地を行い、石高に応じて年貢を納めさせた。
- イ 租・庸・調などの負担が始まった。
- ウ 株仲間を認め営業を独占させる代わりに税を納めさせた。
- エ 地頭が年貢の取り立てを行った。

(滋賀県)

[解答欄]

[解答]エ→ア→ウ

[解説]

イ(奈良：「租・庸・調」より判断)→エ(鎌倉：「地頭」より判断)→ア(桃山：「太閤検地」より判断)→ウ(江戸：「株仲間」より判断)

[問題]

鎌倉時代の農民について述べた文として適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書け。

- ア 農民は、五人組に組み込まれ、衣類や食べ物などの日常生活も規制された。
- イ 農民は、戸籍に基づき口分田を与えられ、租・庸・調を負担した。
- ウ 農民は、武器をとりあげられ、農民と武士の身分がはっきりと分けられた。
- エ 農民は、年貢だけでなく、地頭からさまざまな負担をかけられることもあった。

(兵庫県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

イ(奈良：「口分田」「租・庸・調」より判断)→エ(鎌倉：「地頭」より判断)→ウ(桃山：豊臣秀吉が行った刀狩)→ア(江戸：「五人組」より判断)

[問題]

室町時代には、各地で土一揆が起こった。このころの農民のようすとして最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、その記号を書け。

ア 領主や代官に、武装して反抗する百姓一揆が増え、都市でも打ちこわしが起こった。

イ 寄合によって、共有地の利用、用水の配分、村のおきてを定めるなどの自治を行った。

ウ 小作農民が、地主に対して、小作料の減額などを要求する小作争議を起こした。

エ 有力な農民は、口分田をすてて逃亡してきた農民を働かせ、荒れ地の開墾を進めた。

(奈良県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

エ(奈良：743年の墾田永年私財法が出され、有力な農民は、口分田をすてて逃亡してきた農民を働かせ、荒れ地の開墾を進めた。)→イ(室町：「寄合」より判断)→ア(江戸：「代官」「百姓一揆」「打ちこわし」より判断)→ウ(大正：「小作争議」より判断)

[問題]

豊臣秀吉の行った農業にかかわる政策について述べた文として正しいものを次から1つ選び、記号を書け。

ア 農家5～6戸を一組にまとめた五人組をつくった。

イ 備中ぐわの使用や新田開発を奨励して耕地面積を増大させた。

ウ 全国規模で検地を行い、田畑の広さや収穫高、耕作者などを調べた。

エ 惣とよばれる自治的な組織をつくり、農業用水の管理などを行った。

(大阪府)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]エ(室町：「惣」より判断)→ウ(桃山：豊臣秀吉の太閤検地)→イ(江戸：「備中ぐわ」より判断)・ア(江戸：「五人組」より判断)

[問題]

江戸時代の農民について述べているものを、次のア～エから1つ選べ。

- ア 租庸調の負担や兵役の義務を負わされていた。
- イ 年貢軽減などを要求する百姓一揆を起こした。
- ウ 荘園領主と地頭との二重の支配を受けていた。
- エ 惣の結成を進めるとともに土一揆も起こした。

(滋賀県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

ア(奈良：「租庸調」より判断)→ウ(鎌倉：「荘園領主と地頭との二重の支配」より判断)→エ(室町：「惣」「土一揆」より判断)→イ(江戸：「百姓一揆」より判断)

[問題]

江戸時代の社会の様子を表しているものを、すべて選んで記号を書け。

- ア 農民は戸籍に登録され、租などが課せられた。
- イ 農民の納める年貢が幕府や藩の財政を支えた。
- ウ 武士と農工商の間に身分の上下が設けられた。
- エ 武士は地頭として荘園の土地や農民を支配した。

(秋田県)

[解答欄]

[解答]イ，ウ

[解説]

ア(奈良：「租」より判断)→エ(鎌倉：「地頭」より判断)→イ(江戸：「藩」より判断)・ウ(江戸：「武士と農工商」より判断)

[問題]

江戸幕府が行った政策の説明として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号を書け。

ア 土地の面積を調査し、地価を定めてその3%を地租として現金で納めさせた。

イ 貿易を認めた船には勘合を与えて、中国や琉球王国との貿易をさかんに行った。

ウ 商工業を発展させるために、関所を廃止して交通を自由にし、楽市・楽座を行った。

エ 年貢を安定して取るために、農民の生活に細かい指示を出し、五人組をつくらせた。

(佐賀県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

イ(室町：「勘合」より判断)→ウ(安土：「楽市・楽座」より判断)→エ(江戸：「五人組」より判断)→ア(明治：「地租」より判断)

[問題]

明治時代の農村や農民に関することがらとして、最も関係の深いものを次から1つ選べ。

[地租改正 財閥解体 刀狩 荘園]

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]地租改正

[解説]

荘園(奈良・平安・鎌倉)→刀狩(桃山)→地租改正(明治)→財閥解体(昭和(戦後))

[問題]

太閤検地が行われた後の社会のようすを述べているのはどれか、次から1つ選べ。

ア 地頭が荘園におかれた。

イ 石高に応じて年貢が納められた。

ウ 租・調・庸の税が課せられた。

エ 惣という自治組織がつけられた。

(福岡県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

ウ(奈良：「租・調・庸」より判断)→ア(鎌倉：「地頭」より判断)→エ(室町：「惣」より判断)→
イ(桃山・江戸：「石高」より判断)

【】 古代～近世の商工業・諸産業

【問題】

古墳がつくられた時代について述べたものを、次のア～エの中から1つ選んで、その記号を書け。

- ア 鉄砲など、西洋の新しい技術が伝えられた。
- イ 座禅によってさとりを開く禅宗が伝えられた。
- ウ 稲作が広がり、青銅器や鉄器も伝えられた。
- エ 須恵器とよばれる土器をつくる技術が伝えられた。

(茨城県)

【解答欄】

【解答】エ

【解説】

ウ(弥生)→エ(古墳：「須恵器」より判断。須恵器は1000度以上の高湿で焼かれた硬質の陶質土器。5世紀、大陸伝来の新技術により、ろくろを使ってつくられた。)→イ(鎌倉：「禅宗が伝えられた」より判断)→ア(戦国：鉄砲は1543年にポルトガル人によって伝えられた。)

【問題】

和同開珎がつくられたころの取引などのようすについて述べた文として最も適当なものを、次のア～エの中から選んで、そのかな符号を書け。

- ア 物価を引き下げのために株仲間が解散され、商人の自由な取引が認められた。
- イ 農村にも市ができるようになり、取引には宋でつくられた貨幣が使用された。
- ウ 幕府が貨幣をつくる権限などを独占し、金貨、銀貨、銅銭をつくって全国に流通させた。
- エ 都である平城京の中に市がおかれ、各地から送られてきた産物が売買された。

(愛知県)

【解答欄】

【解答】エ

【解説】

和同開珎は奈良時代のころ。

エ(奈良：「平城京」より判断)→イ(鎌倉：宋の時代の日本は平安後期～鎌倉。宋は元によって滅ぼされた。日本で宋銭が流通したのは12世紀後半から鎌倉時代にかけてである。)→ウ(江戸)→ア(江戸後期：水野忠邦の天保の改革1841年)

[問題]

南北朝の争乱後には、社会が安定するとともに、様々な産業もさかんになった。次のア～エのうち、室町時代の商業について述べているものを1つ選び、その記号を書け。

- ア 太閤検地や刀狩などにより兵農分離が進められ、商人や職人は城下町に集められた。
- イ 問屋や仲買などの大商人が、株仲間という同業者組合をつくり、大きな利益をあげた。
- ウ 都の市では、各地から送られてきた産物が売買され和同開珎という貨幣が発行された。
- エ 商品の売買には明から輸入した銅銭が使われはじめ、定期市の開催日数も増えていった。

(岩手県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

ウ(奈良：「和同開珎」より判断)→エ(室町：「明」「定期市の開催日数も増えて」より判断。月に3日開かれる定期市は鎌倉時代に始まったが、室町時代には月に6回開かれるようになった。)→ア(桃山：「太閤検地」「刀狩」より判断)→イ(江戸：「株仲間」より判断)

[問題]

室町時代における商工業の発達の様子を表した文として最も適当なものはどれか、次のア～エから1つ選び、その記号を書け。

- ア 商人や手工業者は、同業者ごとに座とよばれる団体をつくり製造や販売を独占した。
- イ 海運が発達し、江戸と大阪を結ぶ太平洋沿岸の航路に、定期船が往復するようになった。
- ウ 平城京の市では、各地の産物が売買され、和同開珎という貨幣も発行された。
- エ 問屋・仲買などの商人が、株仲間という同業組織をつくり、営業を独占した。

(三重県)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

ウ(奈良：「和同開珎」「平城京」より判断)→ア(室町：「座」より判断)→イ(江戸：「定期船」より判断)・エ(江戸：「株仲間」より判断)

[問題]

紀伊国(和歌山県)の阿氏河荘の農民は、地頭が荘園の慣習を無視して新しい負担を課したので、集団で村をはなれるなどして抵抗した。右の資料は、このころの市の絵である。この時期の市について、あてはまるものを次のア～エの中から1つ選べ。



- ア 農業や手工業の生産力が高まり、寺社の門前や交通の便利なところで市が開かれるようになった。
- イ 商工業の発展をはかるため、楽市・楽座の政策がとられ市場の税が免除された。
- ウ 市が広く各地に生まれ、開催日数が増加し、取引に宋銭や明銭などが多く使用されるようになった。
- エ 唐の貨幣にならって和同開珎が発行され、都の市では、各地から送られてきた産物が売買された。

(福島県)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

「地頭」とあるので鎌倉時代と判断できる。

エ(奈良:「和同開珎」より判断)→ア(鎌倉:農業や手工業の生産力が高まり、定期市が開かれるようになったのは鎌倉時代)→ウ(室町:「明銭」より判断)→イ(安土:「楽市・楽座」より判断)

[問題]

勘合貿易のころの産業のようすについて述べたものは次のどれか。

- ア 京都などでは、土倉や酒屋が高利で金貸しをおこなった。
- イ 西廻り航路、東廻り航路が開かれ海上の輸送が発達した。
- ウ 株仲間とよばれる独占的な同業者組合が成立した。
- エ 民間の資金で大阪紡績会社などが設立され綿糸を作る紡績業が発達した。

(長崎県)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

勘合貿易は室町時代。

ア(室町：「土倉や酒屋」より判断)→イ(江戸：「西廻り航路，東廻り航路」より判断)・ウ(江戸：「株仲間」より判断)→エ(明治：「大阪紡績会社」より判断)

[問題]

我が国の中世の流通に関する説明として，最もよくあてはまるのは，ア～エのうちではどれか。

- ア 西廻り航路などの海上輸送路が整えられた。
- イ 富本銭や和同開珎という貨幣が発行された。
- ウ 商品の流通・販売は，株仲間によって独占されていた。
- エ 中国から輸入された貨幣が，取引に広く使用された。

(岡山県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

中世は鎌倉時代と室町時代。

イ(奈良：「富本銭や和同開珎」より判断)→エ(鎌倉・室町：鎌倉時代は宋銭，室町時代は主として明銭が使われた)→ア(江戸：「西廻り航路」より判断)・ウ(江戸：「株仲間」より判断)

[問題]

右の図は，ア～エのどの時代のものか。

- ア 飛鳥時代～平安時代
- イ 鎌倉時代～室町時代
- ウ 戦国時代～江戸時代
- エ 明治時代～大正時代

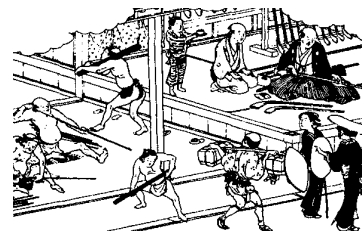
(福井県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

右図の中の鉄砲に注目する。鉄砲は戦国時代の 1543 年にポルトガル人によって伝えられ，やがて堺などでもつくられるようになった。



[問題]

江戸時代の商業や流通について述べた文として適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書け。

- ア 土倉や酒屋とよばれる金融業者や、専門の運送業者が活躍した。
- イ 港が整備され宋との貿易がすすめられた。
- ウ 航路や街道などの交通路が整備され株仲間もつくられた。
- エ 産業革命の進展にともない、財閥が成長した。

(兵庫県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

イ(平安末期：平清盛は兵庫の港を整備して宋との貿易を行った)→ア(室町：「土倉や酒屋」より判断)→ウ(江戸：「株仲間」より判断)→エ(明治：「産業革命」「財閥」より判断)

[問題]

江戸時代の産業や社会の様子として、誤っているものはどれか。

- ア 飢饉のときや年貢が引き上げられたときなどに、農民が団結し百姓一揆をおこした。
- イ 近畿地方では、稲のあとに裏作として麦を栽培する二毛作が始まった。
- ウ 大阪は、全国から米などの産物が運びこまれ、商業の中心地として発展した。
- エ 都市では、商人や手工業者が株仲間という同業者の組織をつくった。

(神奈川県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

イは鎌倉時代。

[問題]

日本における鉄の役割を述べた文として、誤っているものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。

ア 弥生時代に青銅器とともに大陸から日本に伝えられ、武器や工具として利用された。

イ 古墳時代には鉄製の刀剣が権力の象徴として使われ多くの古墳に納められた。

ウ 鎌倉時代には農村にも鍛冶屋が広がり、鉄製農具が普及して農業生産が高まった。

エ 戦国時代に鉄砲が伝来したが、江戸時代まで国内生産は難しくほとんどが輸入された。

(宮城県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

エが誤り。1543年、ポルトガル人が種子島に鉄砲を伝えた。まもなく鉄砲は、全国の戦国大名らに広まり、堺などで大量につくられるようになった。

【】 明治以降の産業・経済

【問題】

次のア～ウは、幕末・明治・大正の時期におけるわが国の貿易の特色と、その貿易にかかわる社会の様子について述べた文である。ア～ウを年代の古いものから順に並べ、記号を書け。

ア 生糸や綿糸，綿織物の輸出が増加し，かつてない好景気がおとずれた。

イ 生糸，茶が輸出品の大部分をしめ，品不足や値上がりなどの混乱がおこった。

ウ 生糸や綿糸の輸出が増加し，製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進展した。

(秋田県)

【解答欄】

【解答】イ→ウ→ア

【解説】

イ(幕末)→ウ(明治)→ア(大正)

【問題】

年代の古い順に左から並べて，その記号を書け。

ア 世界恐慌によって日本経済は大きな打撃を受け，深刻な不況にみまわれた。

イ シベリア出兵による米の買いしめから米価がはね上がり，米騒動が全国に広がった。

ウ 官営模範工場をつくるなど，近代産業を育てるための殖産興業政策が進められた。

エ 朝鮮戦争での軍需物資の調達がおこなわれ，特需景気とよばれる好景気をむかえた。

(茨城県)

【解答欄】

【解答】ウ→イ→ア→エ

【解説】

ウ(明治初期：「官営模範工場」「殖産興業政策」より判断)→イ(大正：「シベリア出兵」「米騒動」より判断)→ア(昭和(戦前)：「世界恐慌」より判断)→エ(昭和(戦後)：「朝鮮戦争」より判断)

[問題]

1900～1920年の時期のできごとについて述べているのは、下のア～エのうちではどれか。

- ア 世界恐慌の影響により失業者が増大するなど、経済が深刻な打撃を受けるなかで、重要な美術品の海外流出をきっかけに、美術品を保護する政策が進められた。
- イ 第一次世界大戦により物価が上昇し、米騒動が全国に広がるなど人々の生活に影響を与えた一方、経済的に豊かになった人々のなかには、美術品の収集をさかんに行う者もあらわれた。
- ウ 高い経済成長が続き、重化学工業がさかんになるなど、産業構造が変化するなかで、工芸品を製作する産業では、後継者や原材料の確保が難しくなるなどの課題が生まれた。
- エ 富国強兵を目ざして、殖産興業政策が進められるなかで、輸出されたわが国の工芸品などはヨーロッパで高い評価を受けた。

(東京都)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

エ(明治初期:「富国強兵」「殖産興業」より判断)→イ(大正:「第一次世界大戦」1914年,「米騒動」1918年より判断)→ア(昭和:「世界恐慌」1929年より判断)→ウ(昭和(戦後):「高い経済成長」より判断)

[問題]

大正時代の国内のようすについて述べたものとして最も適当なものはどれか、ア～エから1つ選べ。

- ア 日米修好通商条約などが結ばれ大量の生糸・茶などが日本から外国へ輸出され始めた。
- イ 紡績業・製糸業などの軽工業から産業革命が始まり、官営の八幡製鉄所が操業を開始した。
- ウ 好景気のなか、シベリア出兵を見こした商人たちによって米の買い占めがおこなわれた。
- エ アメリカから広がった世界恐慌が日本経済にも大きな打撃を与え、深刻な不況にみまわれた。

(京都府)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

ア(幕末：日米修好通商条約 1858 年)→イ(明治：八幡製鉄所の操業開始 1901 年)→ウ(大正：シベリア出兵 1918 年)→エ(昭和：世界恐慌 1929 年)

[問題]

次のア～エのうち、大正初期のころのわが国のできごとについて述べているものはどれか。1 つ選び、その記号を書け。

- ア アメリカや中国への生糸や綿糸・綿織物の輸出が急増し、大戦景気とよばれた。
- イ 政府は官営の製糸場をつくり、近代産業の育成をめざして殖産興業を進めた。
- ウ 開国によって生糸や茶が輸出されると、国内は品不足や値上がりなどで混乱した。
- エ わが国の不景気は世界恐慌の影響でさらに深刻になり、生糸の輸出も減少した。

(岩手県)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

ウ(幕末：「開国」より判断)→イ(明治初期：「官営の製糸場」「殖産興業」より判断)→ア(大正：第一次世界大戦が始まると、アメリカ向けの生糸や中国向けの綿糸・綿織物の輸出が急増した。)→エ(昭和：「世界恐慌」より判断)

[問題]

太平洋戦争のころの国内の様子について正しく述べたものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。

- ア 産業や経済を支配してきた財閥が解体された。
- イ 関東大震災がおこり、東京や横浜などの地域が大きな被害を受けた。
- ウ 米などの生活必需品が配給制となった。
- エ 政府に不満をもつ士族たちが各地で反乱をおこした。

(山形県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

エ(明治初期：西南戦争 1877 年)→イ(大正：「関東大震災」より判断)→ウ(昭和(戦前・戦中)：「配給制」より判断)→ア(昭和(戦後)：「財閥が解体され」より判断)

[問題]

1964年には東京でオリンピックが開かれた。1960年代のわが国の様子について述べているのはどれか。

- ア 朝鮮戦争によって大量の軍需物資が注文され、経済が活気づいた。
- イ 大戦景気をむかえ、海運業が発展するとともに工業製品を中心に輸出が急増した。
- ウ オートメーションなどの技術革新が進み、高度経済成長が進展した。
- エ GHQの指令を受け、経済を支配してきた財閥の解体が進められた。

(栃木県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

イ(大正：「大戦景気」より判断)→エ(昭和(戦後)：財閥解体 1945年)→ア(昭和(戦後)：朝鮮戦争 1950年)→ウ(昭和(戦後)：高度経済成長は 1955年～1974年)

[問題]

次のア～エのことがらを、年代の古いものから順に並べ、その記号を書け。

- ア 財閥解体が実施される。
- イ 国民総生産が資本主義諸国の中で第2位になる。
- ウ 高度経済成長が始まる。
- エ 重工業を中心に産業革命が達成される。

(高知県)

[解答欄]

[解答]エ→ア→ウ→イ

[解説]

エ(明治後期：「産業革命」より判断)→ア(昭和(戦後)：財閥解体 1945年)→ウ(昭和(戦後)：高度経済成長は 1955年～1974年)→イ(昭和(戦後)：国民総生産が資本主義諸国の中で第2位になったのは 1968年)

[問題]

第二次世界大戦後の経済の動きに関する次のア～オを年代の古い順に並べよ。

- ア バブル経済が崩壊し、長い不況の時期を迎えた。
- イ 小作農に安く土地をゆずりわたすなどの農地改革が始まった。
- ウ 中東でおきた戦争の影響で、石油危機が発生した。
- エ 朝鮮戦争がきっかけとなり、わが国の経済状況は上向いた。
- オ 高度経済成長の時期を迎え、重化学工業が発展した。

(長崎県)

[解答欄]

[解答]イ→エ→オ→ウ→ア

[解説]

イ(財閥解体 1945 年・農地改革 1946 年など敗戦後 GHQ の指示による経済の民主化)→エ(朝鮮戦争 1950 年による特需景気)→オ(高度経済成長の始まりは 1955 年ごろ)→ウ(石油危機 1973 年で高度経済成長が終わる)→ア(1980 年代後半にバブル経済, 1990 年代にバブルの崩壊)

[問題]

次のうち、東海道新幹線が開通したころの社会のようすについて述べた文として最も適当なものはどれか、ア～エから 1 つ選べ。

- ア 高度経済成長の時期であり、電気冷蔵庫や洗濯機などが普及した。
- イ 石油危機がおこり、石油ばかりでなく日用品も値上がりした。
- ウ 環境基本法が制定され総合的に環境問題に取り組むようになった。
- エ 財閥解体や農地改革が行われ経済面の民主化が進められた。

(京都府)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

エ(財閥解体 1945 年・農地改革 1946 年)→ア(高度経済成長は 1955 年～1974 年)・(東京オリンピック 1964 年)→イ(石油危機 1973 年)→ウ(環境基本法 1993 年)

[印刷／他の PDF ファイルについて]

※ このファイルは、FdData 入試社会歴史(6,800 円)の一部を PDF 形式に変換したサンプルで、印刷はできないようになっています。製品版の FdData 入試社会歴史は Word の文書ファイルで、印刷・編集を自由に行うことができます。

※FdData 入試社会・入試理科全分野の PDF ファイル、FdData 中間期末(社会・理科・数学)全分野の PDF ファイル、および製品版の購入方法は <http://www.fdtype.com/dan/> に掲載しております。

下図のような、[FdData 無料閲覧ソフト(RunFdData2)]を、Windows のデスクトップ上にインストールすれば、FdData 中間期末・FdData 入試の全 PDF ファイル(各教科約 1800 ページ以上)を自由に閲覧できます。次のリンクを左クリックするとインストールが開始されます。

RunFdData 【 <http://fddata.deci.jp/lnk/instRunFdDataWds.exe> 】

※ダイアログが表示されたら、【実行】 ボタンを左クリックしてください。インストール中、いくつかの警告が出ますが、[実行][許可する][次へ]等を選択します。

【イメージ画像】



【Fd 教材開発】 (092) 404-2266
<http://www.fdtype.com/dat/>